



2021年6月22日

各 位

会 社 名 神東塗料株式会社
代表者名 代表取締役社長 高沢 聡
(コード：4615、東証第1部)
問合せ先 総務人事室部長 塚越 学
(TEL. 06-6426-3355)

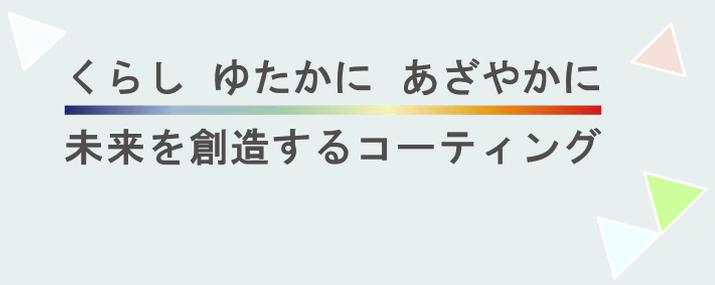
2020-2022 年度 中期経営計画の進捗について

当社は2020年8月に公表した2020年度から始まる3年間の中期経営計画につきまして、去る6月14日開催の取締役会にて修正を行うことを決議し公表いたしておりますが、6月22日開催の第127回定時株主総会において、これまでの進捗を振り返るとともに今後の取り組みにつきご出席の株主の皆さまにご説明いたしましたので、その際に使用した資料をご報告いたします。

以上



くらし ゆたかに あざやかに
未来を創造するコーティング



2020-2022年度 中期経営計画の進捗について

～ 殻をやぶり、未来を創る ～

2021年6月22日

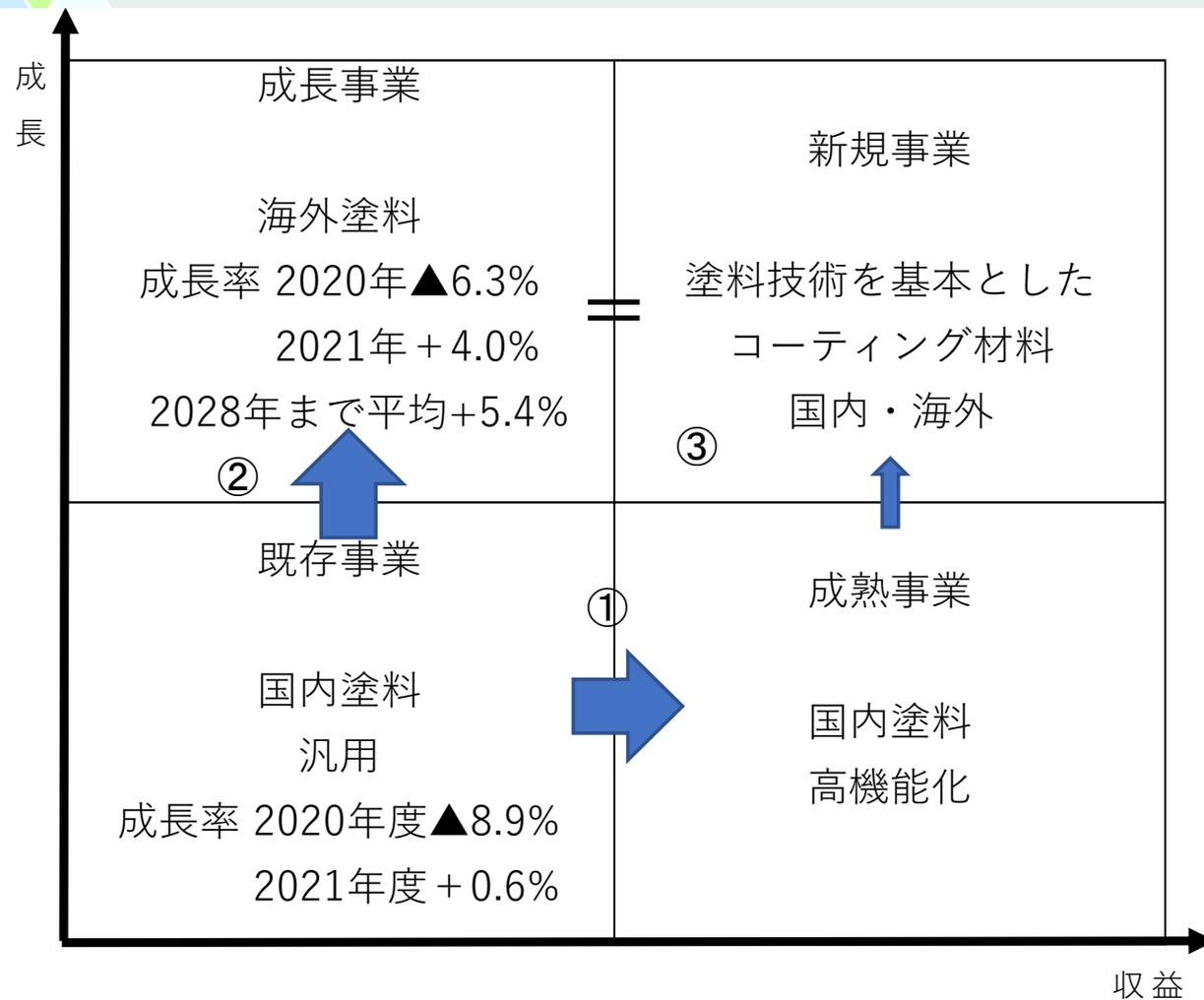


経営基本方針

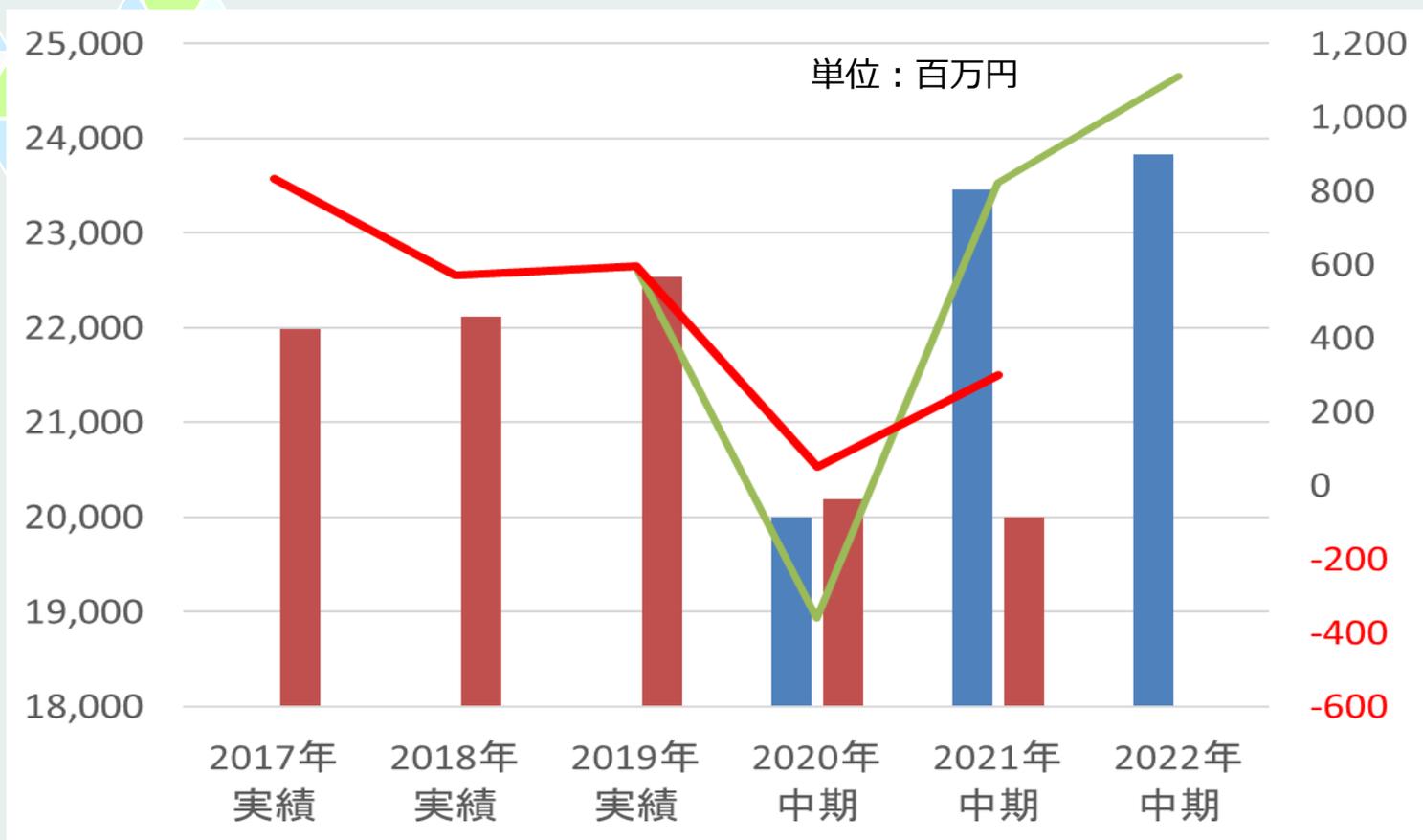
塗料設計・製造技術を事業展開のコアとする

1. **塗料製品の一層の高機能化**で収益の改善をはかる。「水」の神東から「環境」の神東へ
2. **事業領域の拡大**として、『新規コーティング材開発』、『海外市場への拡販』を進める
3. 全分野にわたる**生産性の向上**を達成するため、デジタル化を進める

高機能化と事業拡大の道すじ



中期業績目標の達成状況



中期売上高
営業利益率

実績・予算売上高
営業利益率

				200	235	238	(億円)
				△1.2%	3.5%	4.7%	
2017年	220	221	225	202	200		
2018年	3.8%	2.6%	2.6%	0.3%	1.5%		

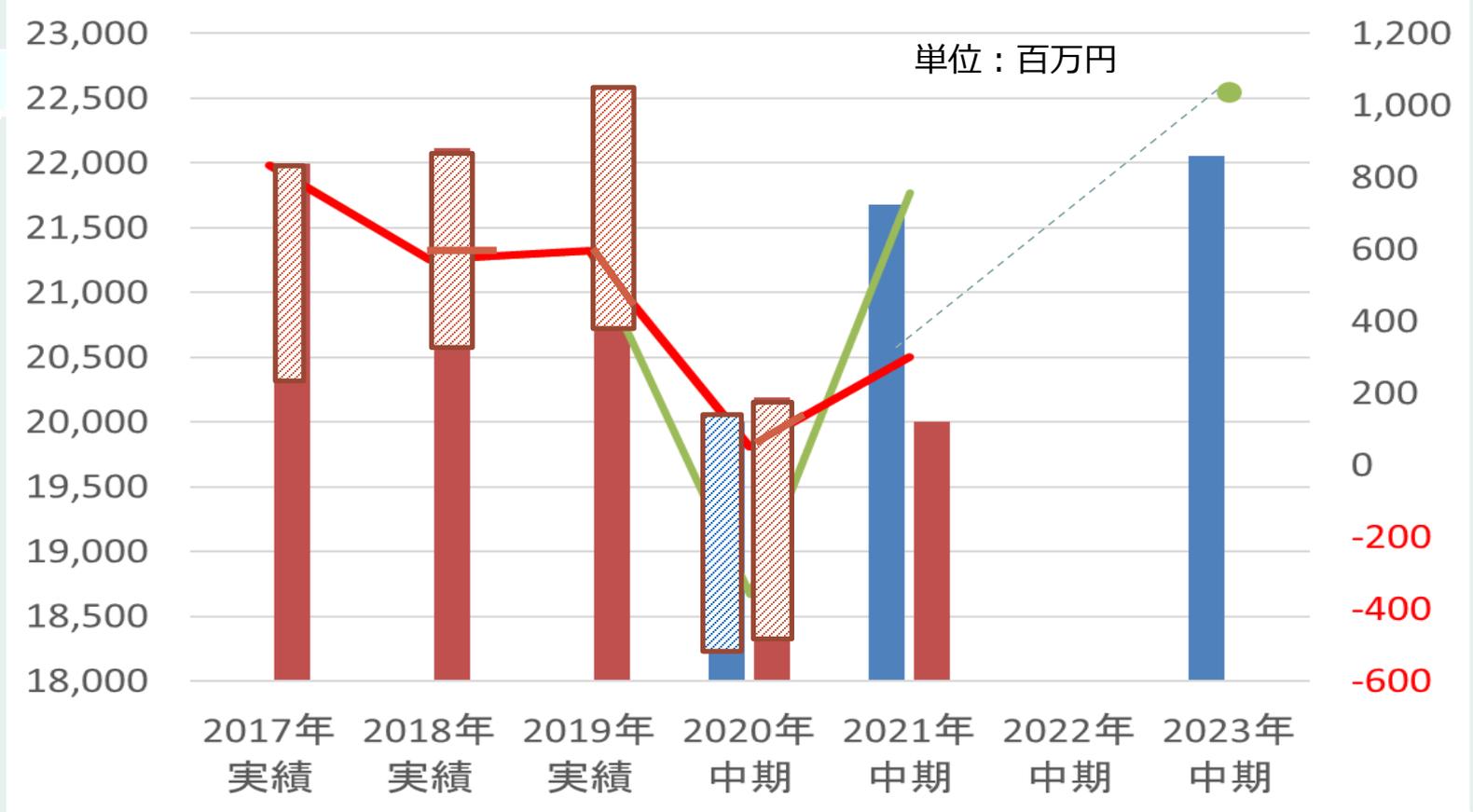
中期経営計画の修正について

(2021年6月14日公表)

- 新型コロナウイルス感染症により経済活動が大きく制限される中、日本経済の回復はより緩慢なものになるとの予測。当社顧客である自動車、建築、機械等の需要回復にも遅れ。
このため、目標達成時期を1年先延ばしし、2023年度末とする。
- 最終年度の目標とする売上高営業利益率 4.7% は据え置き、売上高目標も据え置くが、2021年度から化成品事業の収益認識が変わるため、対応する金額を補正。

	2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期		2024年3月期
	当初計画	実績	当初計画	業績予想	当初計画	今回修正	今回修正
売上高	20,000	20,193	23,500	20,000	23,800	未定	22,050
営業利益	△250	51	822	300	1,112	未定	1,036

中期業績目標の見直し



中期売上高(修正後)
営業利益率

実績・予算売上高
営業利益率

				200	217	220	(億円)
			△1.2%		3.5%	4.7%	
実績・予算売上高	220	221	225	202	200		
営業利益率	3.8%	2.6%	2.6%	0.3%	1.5%		

塗料製品の一層の高機能化に向けた取り組み

- **安全対策塗料の拡販**
(段差修正材等による安心・安全の提供)
- **遮熱塗料の拡販** (効果実測データ取得)
- **新施工システムによる戸建改修**
(新システム仕様による安心施工で工期短縮、
3回塗りから2回塗り)
- **低温硬化型焼付塗料の拡販**



事業領域の拡大に向けた取り組み

- 海外市場への拡販
出張制限が続く中、既存海外拠点を活用した
市場リサーチを継続中

- 新規事業開発に向けたシーズ探索
次世代防食技術の開発
省エネ・カーボンニュートラル関連テーマ
探索 等



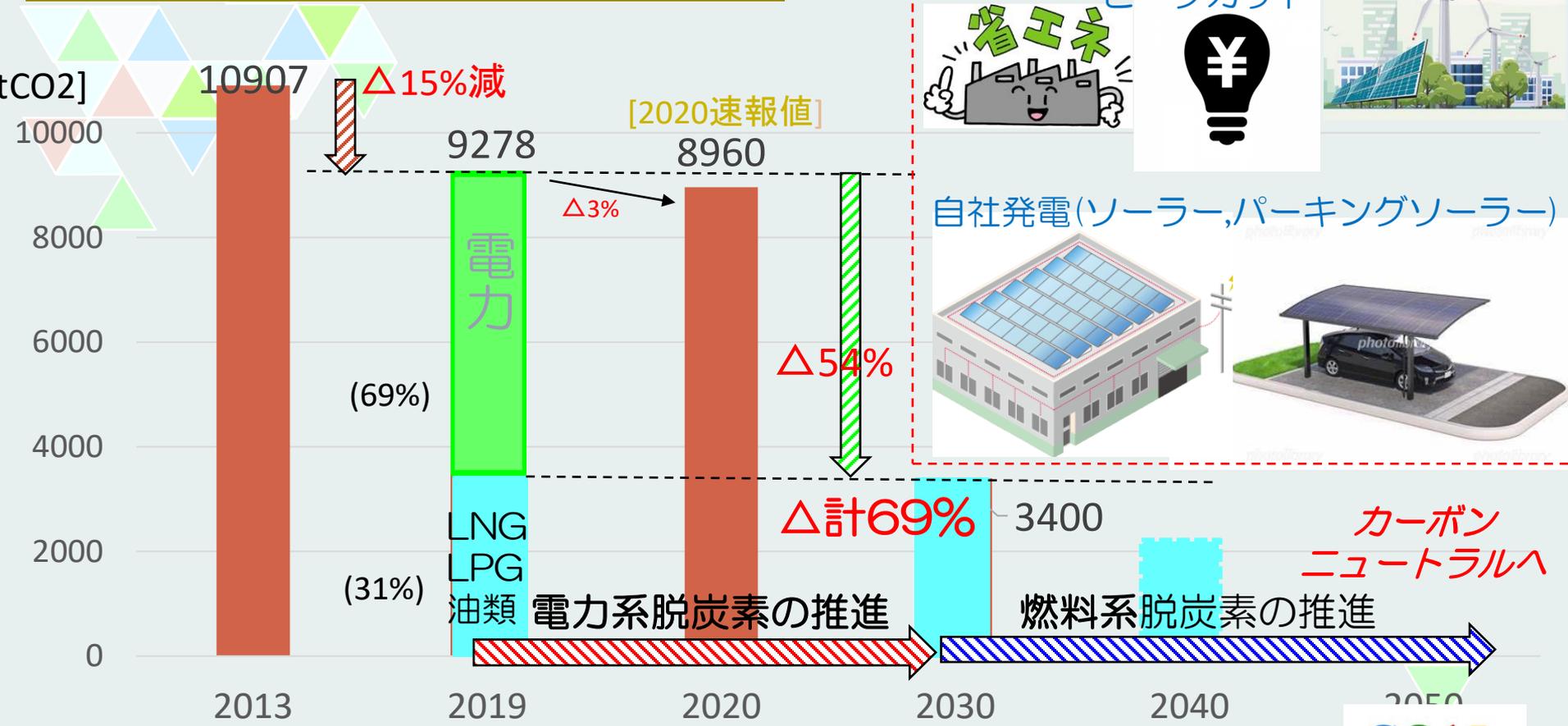
生産性向上に向けた取り組み

- 技術部門の東京事業所から千葉への移転統合
- 粉体塗料自動充填化による能力増強と省力化
- DCSによる工場運転自動化拡充
- ワークフローシステム導入による稟議書電子化
営業支援システム、電子実験ノート、購買システム
導入によるペーパーレス化・効率化等

サステナビリティ改善の取り組み

	中長期目標	2019⇒2020年度
女性管理職比率の引き上げ	2022年度末までに10%達成	7.4% ⇒ 7.7%
環境配慮型塗料の販売比率	84%以上を維持	84.12% ⇒ 84.75%
省エネルギー	生産量原単位で前年比1%削減	407.6L⇒403.5L (△1%) バッチ当たり灯油換算
産業廃棄物削減	2022年度末までに15%削減	20.3t ⇒ 18.3t (△10%)
PRTR対象主要物質排出量	2022年度末までに10%削減	6230kg⇒5641kg (△9.5%)
CO2排出量	2022年度末までに6.5%削減	9278t⇒8960t(速報) (△3.4%)

CO2排出量削減ロードマップ



2030年度までに電力系を再生エネルギー100%利用に切り替えることで、2013年度比69%削減

2030~2050年：燃料系で新技術導入を検討

- ・カーボンニュートラルLNG
- ・カーボンニュートラルメタン(H2+CO2)等



リサイクルの取り組み

以下コンセプトにつき、具体化に向けて検討中

段ボール包装のプラスチック化
によるリサイクル使用
(総排出CO2削減効果算定済み)



木製廃パレットの
サーマルリサイクル

